

別紙様式 2 (シラバス見本)

授業科目名	観光地振興論Ⅱ	大学名	帝京大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	後期
学部・学科等	地域経済学科	曜日	後期
必修・選択区分	選択	時限(時間)	後期
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	未定
担当教員名	五艘 みどり		
電話番号(代表者名)	028-627-7120(教務係)	e-mail アドレス	goso@ucree.teikyo-u.ac.jp
オフィスアワー	特に設けず、e-mail や電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> 観光地の持続的なあり方について、各地の事例をもとに理解を深めます。事例では、各地域の背景・取組み・効果・課題について説明をしますが、同時に直面する地域の問題を提示しますので、解決はどのようにしたら良いか考えてもらい、思考力を鍛えてください。 観光地タイプは、温泉観光地、山岳・高原リゾート(スキーリゾート含む)、海浜リゾート、歴史的街並み観光地、農村観光地などを扱います。事例は国内に加えて先進事例となり得る海外事例も交えて講義を行います</p> <p><前提とする知識・経験> 一般的な日本および世界の地理に関する知識を持っていることが望ましい</p> <p><授業の具体的な進め方> 日本の観光地の変遷と現状、求められる観光地の方向性を理解する、各地の具体的な事例について学ぶ、日本の多くの観光地振興に見られる問題や課題、新たな兆しについて理解する、という順序で進めて行きます。</p> <p><授業計画> 第1週 日本の観光地をめぐる背景・観光地のライフサイクル 第2-3週 温泉観光地：和倉温泉・熱海温泉の事例から 第4週 山岳・高原リゾート(1)：上高地の事例から 第5週 山岳・高原リゾート(2)：アメリカ・ヨセミテ国立公園の先進事例 第6週 海浜リゾート(1)：神奈川の海水浴場と沖縄の滞在型リゾート 第7週 海浜リゾート(2)：フランスからイタリアにかけての地中海沿岸地域 第8週 歴史的町並み(1)：妻籠、川越の事例から 第9週 歴史的町並み(2)：イタリアの中世の街並み保存 第10週 農村観光(1)：和束町(京都府)の茶畑観光 第11週 農村観光(2)：イタリア・南チロル県のアグリツーリズム 第12週 観光資源の見方を変える：知床の「流水ウォーク」等の事例から 第13週 観光推進組織のあり方：オーストリアとフランスの事例から 第14週 期末試験 第15週 期末試験の振り返り</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 教科書は使用しません。必要に応じて資料を提示します。</p> <p><成績評価法> 中間期課題レポート(30%)・授業内ミニテスト(30%)・まとめのテスト(40%)の結果を総合して評価する。2/3(期末試験を含めて10回)以上出席しないと評価の対象としない。(単位を取得できない。)</p> <p><教員からのメッセージ> 地域の課題解決のあり方に興味を持つ学生の方の参加を歓迎します。事例には必ずしもうまくいっていないものや、地域間ネットワークなど新しい取組みもあります。疑問に思ったことは授業で積極的に発言してください。</p>		

